

林業ミニ情報 No.137

平成28年9月

- 1 地域材を使用した道の駅「ひたちおおた～黄門の郷～」
がオープン 1
(常陸太田林業指導所 古谷)
- 2 県央地区林友会が「低コスト化造林へのチャレンジ」
講演会を開催 1
(笠間林業指導所 宇都木)
- 3 中学生が林業の職場を体験 2
(銚田林業指導所 仲野)
- 4 「NPO法人うしく里山の会」の活動について 3
(土浦林業指導所 加藤)
- 5 下妻市内の子ども会で森林・林業体験学習を実施 4
(筑西林業指導所 工藤)
- 〔林産情報〕 素材・製材品価格及び新設住宅建設の動向 6
(林業技術センター 益子)

1. 地域材を使用した道の駅「ひたちおおた～黄門の郷～」がオープン

当管内の常陸太田市で今夏オープンした道の駅「ひたちおおた～黄門の郷～」において、内装に県産木材をふんだんに使用した施設整備を行いましたので紹介します。

常陸太田市では、道の駅の計画当初から内装部分は見た目にも優しく温かみのある木材を取り入れることとしていました。このため、施設整備に当たっては森林湖沼環境税活用事業である「いばらき木づかい環境整備事業」を活用して内装の木質化を行いました。

内装に使用した木材は、地元である常陸太田市産の木材を壁や天井などいたるところで使用しています。建物に入った瞬間、木の香りにつつまれて、木のぬくもりがあふれる空間を感じることができる施設となっています。

道の駅を利用した方が気軽に県産木材に触れ、木の良さや木材利用の意義についても気付き、木を使うということを考えるきっかけになることを期待しています。

オープンしたばかりの道の駅「ひたちおおた～黄門の郷～」にぜひ足をお運びいただき、木の良さを味わってみてください。



地域材をふんだんに使用した室内の様子



レストラン内部(壁・天井等に地域材を使用)
(常陸太田林業指導所古谷 麻美)

2. 県央地区林友会が「低コスト化造林へのチャレンジ」講演会を開催

去る8月8日(月)、水戸合同庁舎で県央地区林友会(石川多聞会長)通常総会が開催されました。当会では2年に1度先進地視察研修を開催していますが、視察のない年は、役員会と総会のみでした。総会は役員・総代の方々に集ってもらえる良い機会なので、森林・林業の新しい話題を提供したいと考え、今回、初の試みとして、講演会を開催することとしました。現在、低コスト化造林に向けた研究に取り組まれている、林野庁関東森林管理局森林技術・支援センターの田口忠久所長に講師をお願いしたところ快く引き受けてくださり、総会議事後「低コスト化造林へのチャレンジ」

と題して講演会を開催しました。

田口所長は、講演の冒頭で関東森林管理局で低コスト造林の取り組みを実施した経緯として、木材価格の低迷が長期に渡っており、林業経営の厳しい状況が続いているためと説明されました。素材生産は、作業道と高性能林業機械を組み合わせることで作業システムの低コスト化が進んでいます。一方、造林では、低コスト化を図るため、マルチキャビティコンテナ苗（以下、コンテナ苗）を用いた実証試験が九州で実施されてきました。



田口所長による講演の様子

このことから、森林技術・支援センターでは、車両系林業機械とコンテナ苗を活用した木材の生産から造林までを一体的に行う、一貫作業システムの実証試験を行ってきました。今回は、九州での「コンテナ苗の実証試験」とあわせて、森林技術・支援センターが城里町内の梅香沢国有林で行った実証試験の成果が紹介されました。一貫作業システムでは、伐採時に使用した車両系林業機械をそのまま地拵えや苗木の運搬に利用することと、植栽時期が長く、植え付けの省力化が図れるコンテナ苗を植え付けることで、林業の効率化、低コスト化が期待できるとのことです。試験結果として、機械と人力との作業効率の比較や、コンテナ苗の植栽時期の検討結果、普及への取り組みなどが紹介され、出席者は熱心に聞き入っていました。

また、講演後の質疑応答では、出席者から、裸苗より苗高が低く、目立たなくなりやすいコンテナ苗の下刈の注意点や、一貫作業システムにおけるメリット、導入可能な条件、機械による地拵えの環境への影響など、様々な質問が出され、関心の高さが伺えました。

県央地区は苗木生のと同時に、森林資源も豊富であることから、今回の講演では大変参考になる情報が得られ、有意義であったと感じています。今後も多くの林業関係者に情報提供していくことで、林業の活性化を推進していきたいと考えています。

(笠間林業指導所 宇都木 景子)

3. 中学生が林業の職場を体験

去る8月25日と26日の2日間、当林業指導所が中心となり、中学生の職場体験を実施しました。

これは、潮来市立潮来第二中学校から、2年生の職場体験を行う中で、生徒1名が「林業」の職場体験を希望しているとの相談を受けたため、生徒等と面談を行い、木材生産から加工・消費といった一連の流れを体験（見学）してもらうこととし、林業

普及指導員が、各段階における事業者と協力を依頼し実施したものです。

なお、林業の職場体験を希望した生徒（K君）は、小学生の時に当林業指導所が行った森林・林業体験学習において間伐作業を体験しており、現在は、大型の機械を使った木材生産に興味があるとのこと。

1日目は、笠間西茨城森林組合の協力を得て、笠間市内の木材生産を行っている現場において伐採・造材・運搬作業の見学を行うとともに、森林組合の職員の指導のもと高性能林業機械のハーベスタとフォワーダの操作を体験してもらいました。



フォワーダの操作体験

また、2日目は、鹿嶋市にある江間忠ウッドベース鹿島（株）の協力を得て、プレカット工場の見学と大規模木造施設の建築現場の見学を行いました。プレカット工場では、フォークリフトの運転操作も体験しました。K君は、2日間を通じ「機械を動かしたことが楽しかった」と話していました。



プレカット工場見学の様子

林業・木材産業を発展させるためには、担い手対策は不可欠です。

今回は生徒1名でしたが、より多くの子どもたちに「林業は魅力的な仕事だ。」「林業を体験してみたい。」と思ってもらえるよう引き続き、普及・指導を行っていきたいと思います。

（銚田林業指導所 仲野 繁）

4. 「NPO法人うしく里山の会」の活動について

牛久市周辺において「自然と人が調和した美しい里山を保全し、未来に引き継ぐ」ため、地域住民主体の環境改善活動を行っている「NPO法人うしく里山の会」を紹介し

ます。当会は、平成2年に開園した「牛久自然観察の森」の効果的な運営を目指すため、平成15年に市民団体として設立され、平成16年にNPO法人格を取得、平成18年からは指定管理者として牛久自然観察の森の管理・運営を行っています。

現在、会員数は約80人で、60歳代の方を中心に、牛久自然観察の森とその中に整備されている「ネイチャーセンター」を拠点として、里山等の身近な自然環境の保全・調査や自然環境教育等の様々な活動に取り組みしているほか、当指導所と連携し

て森林・林業体験学習を実施しています。

同会では、自然観察の森を市民の方により身近に利用してもらうため、「牛久の里山樹木ハンドブック」の作成や講師派遣による自然観察出前講座の開催、木のぬくもりを伝える木育広場、木工クラフトなどの取組を積極的に進めています。

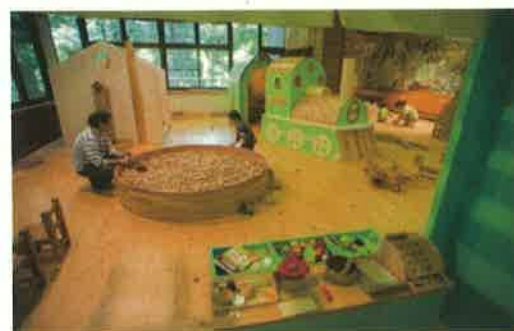
さらに、最近では、他の地域の施設との差別化を図るため、夕暮れ時の昆虫の活動（ヒグラシの大合唱、バッタの産卵、コオロギ・クツワムシの求愛など）を見せる自然観察（マジックアワーミュージアム）やセグウェイを使ったガイドツアーなどの新たな体験活動にも取り組んでいます。

今後は、圏央道の開通に伴い、より広範囲での利用者の取り込みを図るため、体験活動の充実とともに、牛久市外への情報発信にも力を入れていくとの事です。

当指導所としても、平地林・里山林の保全を図るため、引き続き、このような地域主体による里山環境保全・自然環境学習等への支援を継続していくこととしています。



自然観察の様子



木育広場の様子

(土浦林業指導所 加藤智一)

5. 下妻市内の子ども会で森林・林業体験学習を実施

筑西林業指導所では、管内小学校等の生徒を対象に、森林の働きや林業の役割、木の良さ等について分かりやすく解説する「森林・林業体験学習」を積極的に推進しています。

しかし、体験学習の実施校については、過去に実績のある学校に偏る傾向にあり、体験学習についての幅広いPRと新規団体の取り込みが課題となっていました。

そこで、今年度からの新しい取り組みとして、管内の市町教育委員会を通じた生涯学習団体へのPRや、地域のイベント等を主催する市町担当課に対してPRを行った結果、従来の学校教育におけるカリキュラムの枠を越え、多くの地域活動や商工行事等での実施要望をいただくことができました。

このような経緯を経て、過去に箸づくりの実績が無かった下妻市において、去る8月20日に市内の子ども会（巴会）行事として、30名の児童・保護者が参加し、本県産の

ヒノキを使ったマイ箸作りを行ったので紹介します。

当日は、まず林業普及指導員により箸の材料として使用するヒノキは間伐材であることの説明や、健全な森林を維持管理するうえでの森林施業の重要性等について解説を行いました。

その後、箸作りの手順やカンナを使ううえでの注意事項について見本を使用しながら説明し、親子で作業を始めました。初めのうちは、カンナをうまく扱えずに悪戦苦闘していた参加者でしたが、林業普及指導員が巡回しながら道具の使い方を指導すると、次第に要領を得た様子で、材を削る手にも一層力が込められていました。

また、作業をしていくうちに、児童よりも熱心に箸を作っている保護者も何人か見受けられ、参加者にとっては短い時間でしたが、親子でふれあえる楽しいひとときとなりました。

最後に、このような取り組みは、子ども達だけでなく保護者も一緒に木に触れあうことで、木材に対する興味や関心を同士で共有し、森林・林業に対する理解をより一層深めることに貢献できるということを、この体験学習を通じて感じました。

当林業指導所では、引き続き今回のように親子の貴重な体験学習の機会を提供していきたいと考えています。



森林・林業の解説



箸づくりの様子

(筑西林業指導所 工藤 彰斗)

〔林産情報〕

茨城県の素材・製材品価格(平成28年)

単位：円/m³

区分	樹種	規格	区分	127年 実績	128年 時点価格	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
国産材	スギ	3.00×14~20	柱材	11,200	11,500	13,400	11,700	10,600	9,300	9,400	11,000	12,900	13,500							
		3.65×18~28	中目材	10,700	10,400	11,200	10,600	11,100	10,300	9,400	9,700	11,100	9,600							
		4.00×8~13	小径材	12,000	11,900	14,100	13,100	11,600	10,200	9,000	9,500	10,200	10,600							
	ヒノキ	3.00×14~20	柱材	14,300	14,000	16,400	16,300	14,600	14,300	13,600	13,200	14,700	14,300							
		4.00×18~28	中目材	16,000	15,900	16,900	16,200	15,900	14,900	14,400	13,400	14,900	16,100							
		4.00×8~13	小径材	12,100	10,700	12,800	11,600	9,900	11,300	8,500	8,600	12,900	9,800							
外材	米マツ	6.00×30	No.3	—	20,400	—	—	—	32,200	31,800	28,600	28,900								
	米ツガ	6.00×30	No.3	—	25,400	—	—	—	26,700	25,300	25,100	26,500								
	北陸エノマツ	3.8×20~28	込み	—	23,300	—	—	—	23,700	23,200	23,200	23,200								
国産材	スギ	3.00×10.5×10.5	柱・KD特	—	53,600	—	—	—	63,000	63,000	63,000	65,000								
		4.00×10.5×10.5	柱・KD特	—	58,000	—	—	—	58,000	58,000	58,000	58,000								
		3.65×1.4×10.0	スギ・グリーン特	—	42,000	—	—	—	42,000	42,000	42,000	42,000								
		3.65×3.6×4.6	ヒノキ・グリーン特	—	40,000	—	—	—	40,000	40,000	40,000	40,000								
		4.00×9.0×9.0	野黒・グリーン特	—	35,000	—	—	—	35,000	35,000	35,000	36,000								
	ヒノキ	3.00×12.0×12.0	柱・KD特KD特	—	60,000	—	—	—	60,000	60,000	60,000	60,000								
		4.00×12.0×12.0	上合・KD特	—	65,000	—	—	—	65,000	65,000	65,000	65,000								
		米マツ集成材	4.00×12.0×24.0	梁・桁・KD特	—	60,000	—	—	—	60,000	60,000	60,000	60,000							
		米ツガ	4.00×12.0×12.0	梁・土留・グリーン特	—	68,000	—	—	—	68,000	68,000	68,000	68,000							
		欧州アカマツ	300×4.0×3.0	野黒・内地産KD	—	68,000	—	—	—	68,000	68,000	68,000	68,000							
レッドウッド集成材	3.0~6.0×10.5×15.0~36.0	梁・桁・集成材	—	68,000	—	—	—	68,000	68,000	68,000	68,000									

注)

外材の素材及び製材品は区分の見直しが実施されたため、4月以降分を掲載。
国産材の素材価格は7月末、外材の素材・製材品は6月末現在。

茨城県の新設住宅建設の動向

単位：戸

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
27	着工数	1,623	1,795	1,862	1,772	1,782	2,134	1,957	1,886	1,911	2,224	1,661	1,703	22,310
	木造数	1,127	1,151	1,098	1,316	1,298	1,456	1,399	1,421	1,391	1,445	1,149	1,174	15,425
	木造率	69.4%	64.1%	59.0%	74.3%	72.8%	68.2%	71.5%	75.3%	72.8%	65.0%	69.2%	68.9%	69.1%
	累計	1,623	3,418	5,280	7,052	8,834	10,968	12,925	14,811	16,722	18,946	20,607	22,310	
28	着工数	1,412	2,007	2,079	1,734	1,857	1,983	1,944						13,016
	木造数	1,070	1,286	1,639	1,245	1,378	1,431	1,403						9,452
	木造率	75.8%	64.1%	78.8%	71.8%	74.2%	72.2%	72.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	72.6%
	累計	1,412	3,419	5,498	7,232	9,089	11,072	13,016	13,016	13,016	13,016	13,016	13,016	

